

慶應義塾大学 文学部

心理学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学専攻では、心や行動を科学的に捉え、社会における人々の行動や反応を客観的に把握し、その背後にある原因や機構を深く理解することのできる人材の育成を目指している。1年次に総合教育科目として、人文科学系、社会科学系、自然科学系の各科目を網羅的に学び、人間の心を幅広い観点から捉える柔軟性を身につける。特に、心理学が含まれる自然科学系の科目の履修を通して、科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎について学ぶ。2～4年次には、専門教育として、主に実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付ける。それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修をも義務づけ、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。また、実践力の育成を目指し、データ解析に必要な統計的スキルを修得させる。さらに、4年次における卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を育む。また、ゼミや発表会におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。これらの全過程を通して、社会における人間行動を洞察する力と、さまざまな場面で生じうる心や行動の問題に対処するための素養をもつ人間を育成する。

以上の方針にもとづく要件を満たしたと認められる学生に学士（人間関係学）の学位を授与する。

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が実証的で目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。